ロシア語　語法便覧

品　詞

１．ロシア語には10種類の品詞がある。
２．独立した意味と機能をもつ品詞には名詞、代名詞、形容詞、数詞、動詞、副詞があり、これらを自立語という。副詞の一部を除いて自立語には語形変化がある。
３．前置詞、接続詞、助詞、間投詞は独立した意味をもたず、文中で機能語として作用する品詞であり、これらを補助語という。補助語は語形変化をもたない。
４．文中の機能により元の品詞から別の品詞に転用される場合がある。

名　詞

１．物や現象を名指す品詞である。内容によって固有名詞や一般名詞（具体名詞、物質名詞、集合名詞）、抽象名詞の種類がある。
２．文中では主に主語や補語として機能し、最も重要な品詞である。
３．名詞には性、数、格の属性が必ずある。これらの情報は語尾から読みとることができる。
　［例］газет**а** ＝ ［女性名詞、単数、主格］
４．意味や語尾の綴りによって男性、女性、中性の３種に分類される。
５．通常、名詞は単数形と複数形をもつ。しかし、抽象名詞のようにどちらか一方が常用される名詞もある。
６．名詞には６格（主格、生格、与格、対格、造格、前置格）の区別があり、主語や補語など、文中で果たす機能により決定される。

活動体と不活動体名詞

１．男女や雌雄の区別を問わず人間、動物を表す名詞は、活動体名詞である。
２．それ以外の名詞は、不活動体である。
３．文法変化の上でこの２つの名詞は、複数形と男性単数で違いが顕著になる。活動体では対格形が生格と一致する。不活動体の対格は主格に等しい。

男性名詞

１．人間の男性や動物の雄を意味する名詞で、活動体名詞である。
２．事物を表す男性名詞は主格の語尾が ① -子音 ② -й ③ -ь に終わる。これは不活動体名詞である。
３．語尾変化に関する注意点は以下の通りである。
　▼ -ь に終わる男性名詞を判別する語尾には次のものがある。
　　［-тель］　учи́тель, писа́тель
　　［-арь］　секрета́рь, библиоте́карь
　　［月名］　янва́рь, февра́ль
　▽アクセント移動を伴う名詞ついては以下のような原則がある。
　［１類］常に語尾にアクセントがある。сто́л, стола́
　［２類］単数と複数形が対立する。ле́с, ле́са; леса́, лесо́в
　［３類］複数生格から語尾に移動する。зу́б, зу́ба; зу́бы, зубо́в
　▼複数主格の基本形は -ы, -и である。
　　столы́, журна́лы, музе́и, словари́
　▽しかし複数主格が -а́, -ья に終わる特殊形がある。
　　города́, дома́, леса́, острова́, берега́, глаза́
　　бра́тья, друзья́, сыновья́, ли́стья, сту́лья
　▼不定数量を表す場合、単数生格語尾に -у が使われる。生産型の-а と競合して、-а に吸収される傾向にある。
　　Вам ча́ю или ко́фе?
　▽場所を表すとき、前置格に -у を使う名詞がある。必ずアクセントを伴う。
　　Хорошо́ гуля́ть в лесу́.
４．男性名詞に典型的な接尾辞は以下のようなものがある。
　・-тель 職務や行為を行う人、器械。писа́тель
　・-ник 職業や性格の持ち主。容器や器械。учени́к, ча́йник
　・-щик 職務や行為。носи́льщик
　・-нин 民族や国家の成員、住民。граждани́н
　・-арь 職務や行為を行う人。секрета́рь

女性名詞

1．人間の女性や動物の雌を意味する名詞で、活動体名詞である。

2．事物を表す女性名詞は主格の語尾が ① -а ② -я ③ -ь に終わる。これは不活動体名詞である。

3．語尾変化に関する注意点は以下の通りである。

▼-ь に終わる女性名詞を判別する語尾には次のものがある。

［-ость］ нóвость, рáдость, лúчность

［-жь, -чь, -шь, -щь］ молодёжь, ночь, пóмощь

▽女性名詞には２系統の語尾変化があり、両者はまったく異なる。

［① -а ② -я］ газéта, газéты, газéте, газéту, газéтой, газéте

［③ -ь］ óсень, óсени, óсени, óсень, óсенью, óсени

▼アクセント移動を伴う名詞ついては以下のような原則がある。

［１類］語幹にアクセントのある女性名詞が複数生格から語尾に移動する。-ь に終わる名詞が多い。нóчь, дверь, мать

語尾にアクセントがあるものは以下のような種類に分かれる。

［２類］単数対格と複数主格形で前方に移動する。рукá, головá

［３類］複数主格形のみ前方移動する。волнá, слезá

［４類］単数と複数が対立する。женá, странá

▽複数主格の基本形は、男性名詞と同じく -ы, -и **である。**

Лю́ди покупáют газéты и журнáлы.

4．女性名詞に典型的な接尾辞は以下のようなものがある。

・-ица, -ница **男性名詞から派生し職務などを表す。**учúтельница

・-ка, -анка **男性名詞から派生し職務などを表す。**студéнтка

・-ость **形容詞や形動詞から派生する抽象名詞。**рáдость

・-ция **国際共通語から派生する名詞。**стáнция

中性名詞

1．中性名詞は基本的に事物を表す名詞で、不活動体である。

2．しかし次のような名詞は活動体扱いである。

существó, чудóвище, живóтное, насекóмое

3．中性名詞は主格の語尾が ① -о **②** -е **③** -мя **に終わる。**

4．語尾変化に関する注意点は以下の通りである。

▼ -мя **に終わる中性名詞は特殊変化である。**

▽複数主格の基本形は -а, -я **である。**

▼しかし複数主格が -и, -ья **などで終わる名詞がある。**

плéчи, ýши, я́блоки, дерéвья, кры́лья

судá, облакá, небесá, чудесá

▽アクセントの移動ついては以下のような原則がある。

［１類］語幹にあって移動しない。знáние

［２類］単数と複数で対立する。слóво, дéло, окнó, письмó

5．中性名詞に典型的な接尾辞は以下のようなものがある。

・-ие, -ние **過程を表す抽象名詞。形容詞や地名から派生する。**

・-ство **状況や社会的傾向を表す。**

・-ище **場所やそこで行われる活動を表す。**

不変化名詞

1．外来語や略語に多く見られる。

2．ものを意味する外来語は中性扱いが多く、人間の場合は意味に応じて男性、女性名詞とみなす。

［中性］метрó, такси́, меню́, интервью́

［男性］маэ́стро, атташé

［女性］мадáм, фрáу

3．原語の発音に倣うので、語尾は綴り方規則に依らないことがある。

4．外国の地名や商品名は、ロシア語の一般名詞により性を決定する。

(гóрод) Сóчи, (газéта) Тáймс

5．略語の文法的な処理は個々に辞書などを参照して判断する。

6．文中の前後関係から数や格を判断しなければならない。

Это кни́га о москóвском метрó.［**中性、単数、前置格**］

名詞に転化した形容詞

1．名詞扱いなので、後続の名詞をとらない。

2．人間を意味する場合、性と数に応じて語尾が変化する。

Ваш знакóмый смотрéл балéт в Большóм теáтре.

３．形容詞長語尾中性形が抽象名詞に転化することがある。
［例］но́вое 新しいこと
４．形容詞の語幹に -ость を付加して名詞を形成することができる。
［例］но́вость ニュース

名詞の複数形

１．一般に、可算名詞には複数形がある。
２．複数形しか使わない名詞がある。
▼一対のものを表す。 очки́, брю́ки, воро́та
▽材料や物質。 духи́, дрова́
▼込み入った状態。 вы́боры, перегово́ры
▽集合的なもの。 часы́, де́ньги
３．複数形の変化で主な注意点は以下の通りである。
▼主格形は男性と女性名詞では -ы 、中性名詞は -а である。
▽但し例外もある。
・男性名詞に -а́, -ья の語尾をとるものがある。
города́, дома́, леса́, снега́, вечера́, поезда́, номера́, голоса́
бра́тья, сыновья́, ли́стья, сту́лья
・中性名詞で -и, -ья の語尾をとるものがある。
пле́чи, у́ши, я́блоки, дере́вья, кры́лья
▼生格語尾にはいくつかの種類があるので、詳細を辞書で確認するのがよい。
▽与格、造格、前置格語尾は３性共通である。
▼対格語尾は名詞の性に係わらず、活動体なら生格に、不活動体では主格に一致する。
４．造格語尾の特殊な名詞がある。
людьми́, детьми́, дочерьми́ (дочеря́ми も可)
５．複数形で使用される抽象名詞や物質名詞は、意味が異なる。
▼種類をいう。ви́на, ма́сла
▽大容量や強大性を示す。во́ды, бо́ли
７．２種の複数形をもつ名詞があり、意味に違いがある。
［例］листы́ - ли́стья, цветы́ - цвета́

名詞主格形の用法

１．文の主語として機能する。
Ма́ма там отдыха́ет.
２．文の述語になる。
Э́то моя́ ма́ма.
３．呼びかけに使う。
Влади́мир Никола́евич, здра́вствуйте!
４．動詞 звать に使われる主格補語は慣用である。
Его́ зову́т Никола́й.

名詞生格形の用法

１．名詞＋名詞の構文で、補語や定語の機能を果たす。
Там ко́мната па́пы и ма́мы.
２．主語や対格補語が否定される文で、否定生格として用いる。
У кого́ нет аппети́та? У меня́? Ма́ма, ты не права́.
３．動詞の補語であるが、部分生格として機能する。
Да́йте мне, пожа́луйста, воды́.
４．生格を求める動詞の補語となる。［語順］動詞＋名詞（生格）。
Я немно́го бою́сь воды́.
５．数量を表す。［語順］数詞、または数量代名詞＋名詞（生格）。
▼単数生格形を使用する条件。
・可算名詞で、最小位の数が２、３、４の場合。
Соба́ка разби́ла две ва́зы.
・不可算名詞（抽象名詞、物質名詞）。
В река́х бы́ло мно́го ры́бы.
▽複数生格形を使用する条件。
・可算名詞で、最小位の数が５以上、または数量を表す代名詞。
У него́ мно́го друзе́й.
６．生格を求める前置詞の補語になる［語順］前置詞＋名詞（生格）。
Макси́м поднима́ется без ли́фта.
７．形容詞の補語となる。［語順］形容詞＋名詞。
Спорт поле́зен для здоро́вья.

8．単一比較級とともに用いられ、比較の対象を表す。
Алексе́й Фёдорович ста́рше его́ на 10 лет.
9．時を示す副詞として使われる。日付に用いる例が多い。
Вы́ставка начина́ется пя́того а́вгуста.
10．いわゆる述語生格として機能する。この用法は例が少ない。
Мы с ним — одного́ во́зроста.

名詞与格形の用法

1．他動詞の間接補語として使われる。［語順］動詞＋名詞（与格）。
Он подари́л жене́ тёплое пальто́.
2．与格を求める動詞の補語になる。［語順］動詞＋名詞（与格）。
Я не могу́ ве́рить его́ слова́м.
3．無人称文における意味上の主語として使われる。
［語順］与格の名詞類＋無人称述語。
Ве́ре ску́чно смотре́ть футбо́л.
4．与格を求める前置詞の補語になる。
К сча́стью, э́то мне не ну́жно.

名詞対格形の用法

1．他動詞の直接補語として使われる。［語順］動詞＋名詞（対格）。
Утром я чита́л газе́ту и слу́шал ра́дио.
2．無人称述語の補語になる。
Жа́лко мою́ сестру́.
3．時を表わす副詞として機能する。
Мада́м, я не ви́дел мя́са це́лую неде́лю.
4．距離や数量を表わす動詞とともに使われる。
Муж и жена́ прое́хали в маши́не 40 киломе́тров.
5．対格を求める前置詞の補語となる。
Я прие́хал в пя́тницу, а в понеде́льник иду́ на рабо́ту.

名詞造格形の用法

1．名詞的な合成述語の成分として機能する。［語順］動詞＋名詞造格
Я хочу́ быть врачо́м.
2．形容詞の補語として作用する。［語順］形容詞＋名詞（造格）。
Во́лга бога́та ры́бой.
3．造格を求める動詞の補語として使われる。
［語順］動詞＋名詞（造格）。
Он занима́ется спо́ртом.
4．動詞と結びついて道具や手段を表わす。
Учени́к пи́шет ру́чкой в уче́бнике.
5．受動態の構文で、動作主をあらわす。
［語順］形動詞短語尾形、または -ся 動詞＋名詞（造格）
Петербу́рг был осно́ван Петро́м Пе́рвым.
6．時を示す副詞として使われる。昼夜や四季の表現が代表例である。
Мы хорошо́ отдохну́ли тем ле́том.
7．ようすや方法を表わして動詞を修飾する副詞になる。
Вот мужчи́на! Хо́дит уве́ренными шага́ми.
Они́ пошли́ в теа́тр всем кла́ссом.
8．場所を表わす副詞として機能する。類例は少ない。
Места́ми бу́дет дождь.
9．造格を求める前置詞の補語となる。
Я должна́ ещё ко́е-что сде́лать перед отъе́здом.

名詞前置格形の用法

1．前置格を求める前置詞の補語になる。
［語順］前置詞＋名詞（前置格）。
Расскажи́те мне что́-нибудь о Москве́.

不定法の用法

1．動詞不定法の語尾には、-ть, -ти́, -чь に終わる３種類がある。
もっとも一般的な語尾は -ть に終わる動詞である。
2．不定法は動詞の基本的意味をもつ一方、時制、人称など語形変化に

伴う意味をもたない。

3．不定法の主な用法は以下の通りである。

▼文の主語になる。通常「～することは」と訳される。

Жить — значит что́-то созда́ть.

▽文の述語として機能する。

・通常は「～することである」と訳される。

Его́ цель была́ стать писа́телем.

・複合的な名詞述語成分になる。

Я до́лжен рабо́тать.

・複合的な動詞述語成分になる。

Я могу́ пойти́ туда́.

▼不定法文を形成する。

Что мне де́лать?

▽命令法。

Молча́ть!

▼状況語として文全体や動詞を修飾する。

Мы прие́хали сюда́ отдыха́ть.

▽名詞の定語となる。

Есть возмо́жность пое́хать в Петербу́рг весно́й.

動詞の変化形

1．ロシア語で時制は３つに大別されるが、語尾変化のパターンでは過去時制と現在・未来時制の２種にまとめることができる。

2．現在・未来の語形変化には人称と数に応じて６種類の語尾がある。また過去時制では性と数に応じて４種類の語尾がある。

3．動詞の変化にあたって主な注意点は以下の通りである。

▼動詞には不定法語幹と現在語幹という２種類の語幹がある。不定法語幹からは過去形や形動詞、副動詞が作られ、現在語幹からは現在・未来形や命令形、形動詞、副動詞が派生する。多くの動詞では両者が一致している。一致しない動詞は、辞書に細目が明記される。

▽子音交替を伴う動詞があり、交替パターンは一定している。

歯　音	-ть, -ти	з-ж, с-ш, т-ч, ст-щ, д-ж,
後舌音	-чь	г-ж, к-ч, ск-щ, х-ш
唇　音	-ть	п-пл, б-бл, в-вл, ф-фл, м-мл

・第１型動詞では、-чь型を除き不定形の語末３文字を削除してから変化させる。子音交替は現在変化形全てと命令形で起こる。

писа́ть: пишу́, пи́шешь, ..., пи́шут; пиши́

・第２型動詞では、１人称単数現在形と被動形動詞で発生する。

пригото́вить: пригото́влю, ... ; пригото́вленный

▼-овать 動詞は、名詞や外来語を動詞化するために使われる。

・基本的に不完了体動詞である。但し外来語起源のものは、両方のアスペクトを兼ねている場合がある。

・語幹末が[ж, ш, ц, 軟音]の場合は、-евать に綴りが替わる。

［例］танцева́ть

・現在語幹は -ова- を-у- に、また -ева- を-ю- に替える。

интересова́ться: интересу́юсь

▽-нуть に終わる動詞は、急激な、１回動作を意味する。

・現在語幹では -н- を保持するが、過去変化形ではキープするものと消失するものに分かれる。

верну́ть: верну́, вернёшь, ...; верну́л, верну́ла

привы́кнуть: привы́кну, ...; привы́к, привы́кла

▼特殊変化と呼ばれる一連の動詞がある。

・-ить 型。　пить, бить, лить, шить

・-ыть (-еть)型。　откры́ть, закры́ть, мыть, петь

・古い型。　дать, есть, идти́, е́хать

・混合型。　хоте́ть, бежа́ть

・その他。　быть, жить, стать

4．未来は２種類の表現方法によって表される。

▼単一未来形。完了体動詞を主語にあわせて現在変化させる。動作完

了の意志が伝えられる。
▽合成未来形。動詞 быть を現在変化させ、さらに不完了体動詞の不定形を付加して作る。動作予定や見込みを表す。
［語順］быть の変化形＋不完了体動詞の不定形
5．過去時制の用法
▼過去のでき事を表現するために用いられる。
▽仮定法や表現上の技巧のためにも使われる。
6．現在時制の用法
▼現在進行中の動作を表す。
▽習慣的な動作、くり返される動作を表す。
▼真理や通念、習性などを表現する。
▽近い未来に起こる動作を表す。
7．未来時制の用法
▼未来に起こる動作を表す。

動詞の命令法

1．命令法は、他人に向かってある動作を遂行させようとする依頼や願望を表す。従って２人称命令がもっともよく使われる。
2．命令法には１人称、２人称、３人称命令形がある。形成法の要点は以下の通りである。
▼１人称命令
・完了体、不完了体動詞ともに、主語 мыに対応する未来形を想定するが、主語は省く。文頭に Дава́й(те) を付加してもよい。
・Дава́й(те) ＋ 不完了体動詞の不定形。
・Дава́й (дай) ＋ (я に対応する変化形)は、話し手の決意や申し出を表す。
Дава́й я понесу́.
▽２人称命令形
・命令形の形成は、主語 я に対応する現在形から語尾の -ю を取り去った形を基に派生させる。アクセントもそれに準ずる。
・語幹が母音に終わる動詞では、 -й を付加する。
・語幹が子音に終わり、アクセントが語尾にある動詞には -и́ を付加する。
・語幹が子音に終わり、アクセントが語幹にある動詞には -ь を付加する。
・アスペクトの用法については以下の点に注意を要する。
○聞き手に対する命令や指図は、まず完了体によって伝えられる。
Прочита́йте э́тот текст.
○当事者間に動作の了解が成立している場合は、不完了が使われる。動作の喚起や促進を伝えるのだが、状況によって意味ニュアンスが異なる。あいさつや接客では穏やかな誘い、指図や要請では強制的、高圧的な態度と受け取られる。
Здра́вствуйте. Входи́те, проходи́те, сади́тесь.
Почему́ вы не чита́ете? Чита́йте.
○また話題の焦点が動作以外、たとえばやり方や方向などに移る場合も、不完了体が使われる。
Я не слы́шу. Говори́те погро́мче.
○禁止や不必要、嫌気など否定の命令では不完了体が使われる。
Здесь должно́ быть ти́хо. Не кричи́те.
○但し、警告の意味は完了体によって伝えられる。
［語順］смотри́(те), не ＋完了体動詞。
Смотри́ не опозда́й на по́езд.
▼３人称命令形は、３人称の名詞類を主語とする現在時制文の先頭に Пусть (Пуска́й) を付加する。
Пусть он прочита́ет. Ему́ на́до прочита́ть до конца́.
3．命令の意図は以下の方法で表現される。
▼動詞の命令形。 Скажи́те!
▽動詞の不定法。 Молча́ть!
▼動詞の過去形。 Ну, пошли́!
▽名詞や副詞など。 Марш! Вперёд!

動詞のアスペクト

1．アスペクトとは、動作の行われ方や状態を描写する文法規範をいう。いかなる動詞も不完了体と完了体いずれかのモードに属する。

アスペクトに固有の意味はあるが、通常は時制と組み合わせて使うので、時制ごとに主な用法を学習するのがよい。

2．不完了体動詞は、①持続的な動作、②繰り返される動作、③動作の有無や名指しを表す。文中では通常、これらの意味を補強する副詞や表現などを伴うことが多い。

Я давно́ тебя́ жду. Почему́ ты так до́лго не идёшь?

В како́е вре́мя он обы́чно прихо́дит?

Вы чита́ли рома́н «Ру́сский лес»?

3．完了体動詞は、その動作がある時点で終結することを表す。完結した動作に注目するために、可能不可能や期待、評価などの意味も派生する。このような意味をもつ副詞などが、完了体動詞に伴う。

Вот уже́ и пора́ проща́ться. Вре́мя прошло́ о́чень бы́стро.

4．不完了体過去時制の主な用法は以下の通りである。

▼継続的な動作を表す。

Почему́ ты так до́лго чита́л текст?

▽往復運動やくり返された動作、または習慣的な動作をいう。

Сестра́ ходи́ла к врачу́ в понеде́льник.

▼経験や動作事実の有無を表す。

Вы уже́ смотре́ли фи́льмы на ру́сском языке́?

5．完了体過去時制の主な用法は次の通りである。

▼その動作に目途がついたり、動作が終わったことを表す。

Я до́лго не понима́л его́, наконе́ц, по́нял.

▽その動作が終了して、その結果が現在も残っていることを示す。

Зо́е не хо́чется сейча́с идти́ в кино́. Она́ уста́ла.

6．不完了体現在時制の主な用法は以下の通りである。

▼今、進行中の動作や状態をいう。

Ни́на чейча́с чита́ет?

▽くり返される動作や習慣的な動作を表す。

Я люблю́ чита́ть и по вечера́м всегда́ чита́ю.

▼能力や習性を表す。

Ю́ра то́лько 4 го́да, а он уже́ чита́ет.

▽近い将来に行れる動作を意味する。時間的な幅は程度問題である。

Ве́ра не зна́ет, что за́втра заня́тия начина́ются в 11 часо́в.

7．完了体未来時制の主な用法は、次の通りである。

▼未来において実現する動作を表す。

Каки́м ста́нет в бу́дущем э́тот посёлок?

▽これからの行動に対する意志や実現の可能性を強調する。

Извини́те, за́втра я обяза́тельно принесу́ слова́рь.

8．不完了体未来時制は次のような用法をもつ。

▼未来に行われる動作を列挙する。動作終了の目途は不明である。

Не зна́ю то́чно, но я бу́ду чита́ть до́ма.

9．動詞のペア形成にあたっては次の点を注意したい。

▼通常は、不完了体動詞が根源動詞として扱われる。

▽多くの場合、不完了体動詞に特定の接頭辞を付加して、完了体を派生させる。

с-делать, про-читать, на-писать, по-смотреть

▼接頭辞には固有の意味がある。

▽接尾辞でアスペクトを区別することがある。

реша́ть - реши́ть, отвеча́ть - отве́тить

▼異なる動詞がペアを形成することがある。該当する動詞は極めて少数であるが、もっとも日常的な動詞が含まれている。

брать - взять, говори́ть - сказа́ть, класть - положи́ть

-ся 動詞

1．-ся 動詞には再帰、相互、受動、無人称などの意味がある。

［再帰］одева́ться［相互］встреча́ться［受動］стро́иться

2．動作の対象として対格補語をとらない。格支配は個々に異なる。

［生格］　боя́ться, слу́шаться, каса́ться

［与格］　учи́ться, ра́доваться, удиви́ться

［造格］　занима́ться, увлека́ться, явля́ться, каза́ться

［前置格］　забо́титься о, нужда́ться в

3．-ся 動詞の変化形についての注意点は以下の通りである。

▼-ся の前に母音があると、-сь と綴る。［定式］母音-сь。

現在形では２カ所(я, вы) が、過去形では３カ所(она, оно, они) が該当する。

▽アクセントが女性で語尾に下がる動詞がある。

［例］роди́лся, родила́сь, родили́сь

▼-ся のない形をもたない動詞がある。

［例］нра́виться, смея́ться, наде́яться

形容詞

1．性質形容詞、関係形容詞、物主形容詞に大別される。

2．性質形容詞は以下の特徴をもつ。

▼ある対象の性質や特徴を言い表す。

▽反意語をもつ。

▼比較級、最上級を形成する。

▽短語尾形をもつ。

▼短語尾中性形は副詞としても使われる。

▽程度の副詞と結合することができる。

3．関係形容詞は以下の特徴をもつ。

▼多くは名詞から派生し、２つの単語の関係を表す。［関係形容詞A＋名詞B］が［名詞B＋名詞A］と意味の上で等価の場合が多い。

［例］золота́я меда́ль ＝ меда́ль из зо́лота

▽比較級や短語尾形を作ることはできない。

4．物主形容詞は以下の特徴をもつ。

▼名詞から形成される形容詞で、所有や所属を表す。

▽比較級や短語尾形を作ることはできない。

5．形容詞の主な用法は以下の通りである。

▼名詞を修飾する定語として機能する。［語順］形容詞＋名詞。

・定語機能には長語尾形のみが使われる。

・形容詞は性・数・格において名詞と一致する。

・形容詞が２個以上使われるときは、［性質形容詞＋関係形容詞＋名詞］の語順になる。形容詞の間に接続詞の и を置かない。

▽文の述語成分として使われる。［語順］動詞＋形容詞。

・述語機能には長語尾形と短語尾形が等しく使われる。

・形容詞が２個以上使われるときは、長語尾と短語尾の混用を避けなければならない。

・天候の表現(пого́да)を受けるには長語尾形が使われる。

6．長語尾と短語尾形が競合した場合の使い分けには以下のような原則がある。

▼長語尾形

・恒常性、客観性、一般性を強調する。

Вода́ в э́том о́зере всегда́ холо́дная. Оо́зеро глубо́кое.

・温和なニュアンスをもつ。

Ты, Ма́ша, глу́пая.　**マーシャ、おばかさんね。**

・接続詞 как **とともに用いる。**

Маши́на была́ как но́вая.

▽短語尾形

・一時性、主観性、条件性を強調する。

Вода́ в э́том о́зере холодна́ осо́бенно зимо́й.

・断定的ニュアンスをもつ。

Ты, Ма́ша, глупа́.　**マーシャ、お前はバカだ。**

・述語として機能する形容詞のあとに名詞や動詞不定形、接続詞 что **や関係代名詞** который **を使った従属節、**как ни **を用いた条件節を接続して、拡大した構文を作るときは、形容詞短語尾形を使う。**

Де́душка за́нят разгово́ром.

Я люблю́ люде́й, кото́рые реши́тельны и сме́лы.

・主語が動詞不定形、または次のようなことばを含んでいたら、述語では短語尾形が使われる。э́то, то, что, всё, друго́е, тако́й, вся́кий, ка́ждый**など。**

Кури́ть вре́дно.

Така́я рабо́та бесполе́зна.

7．短語尾形成の注意点は以下の通りである。

▼性と数による４種類の変化があるが、格は主格のみである。

▽男性単数形で語末に子音が連結する場合、子音の脱落を防ぐためにつなぎの母音［o / e］を挿入する。一般に -ный **に終わる形容詞には** -e- **を、また** -кий **に終わるものには** -o-**を挿入する。**

［例］интере́сный, интере́сен: кре́пкий, кре́пок

▼アクセントが女性形で語末に下がるものがある。

［例］ти́хий; ти́х, тиха́, ти́хо, ти́хи

▽中性と複数形のアクセントは通常、一致する。

▼一般に１音節の形容詞はアクセントの移動があると考えてもよい。

形容詞の比較級

１．長語尾形から合成式比較級が、そして短語尾形からは単一比較級が作られる。

２．したがって合成比較級は定語と述語機能を果たし、単一比較級は述語機能をもつことを基本とする。

３．述語機能では両者の競合が予想されるが、単一比較級の方が好まれる傾向にある。また単一比較級には、主語による変化がない。

４．比較の対象は、２通りの表現形式で表される。

▼合成式、単一式ともに［, чем ＋ 名詞の主格］が使われる。

▽単一式に限り、［比較級＋名詞の生格］で表現される。

５．単一比較級についての注意点は以下の通りである。

▼アクセントの位置は、短語尾女性形に一致する。

▽子音交替を伴う比較級は特殊形であり、アクセントは語幹に、そして語尾は -е の１字を綴る。なお交替音のペアは固定している。

г, д	»	ж	строже, моложе
х	»	ш	тише
к, т	»	ч	крепче, богаче
ст	»	щ	чище

▼比較の程度を強調するには、всё, гора́здо, ещё, далеко́ などの副詞が使われる。

▽比較の程度を和らげるには、接頭辞 по- を比較級に付加する。

▼単一比較級の特殊用法として名詞を修飾することがある。

［語順］名詞＋比較級。

Я чита́л те́ксты потрудне́е.

▽比較の差量は［前置詞 на ＋数詞の対格］で表される。対格が数詞の２、３、５の場合、アクセントは前置詞に置かれる。

Она́ ста́рше меня́ на́ три го́да.

▼倍率は［前置詞 в ＋数詞の対格］で表される。

Биле́т в музе́й сто́ит в два ра́за деше́вле.

６．比較級を用いた構文には以下のものが代表的である。

▼［чем ＋比較級 , тем ＋比較級］は「～すればするほど、～である」という意味を表す。

Чем бо́льше, тем лу́чше.

▽［как можно ＋比較級］は、「できるだけ～」の意味を表す。

Он сказа́л как мо́жно серьёзнее.

形容詞の最上級

１．最上級は形容詞が表す性質や特徴が他のものと比較して一番であることを示す。

２．最上級の形成にはいくつかの方式がある。

▼合成式最上級は［са́мый / наибо́лее ＋形容詞長語尾形］によって作られる。

▽単一式最上級は［形容詞語幹-ейший］によって、またアクセントは女性単数に一致する。

・語幹末が г, к, х に終わる場合には、子音交替のうえ、［形容詞語幹-а́йший］を綴る。またアクセントは常に-а́йший にある。

３．両者の競合が生じた場合には以下の傾向が認められる。

▼定語と述語機能ともに、一般には合成式が使われる。

・単一式は文語的、強調的である。また成句などでは紋切り型の意味ニュアンスを伴う。

▽［単一式比較級＋ всего́ / всех］の構文もよく使われる。これは会話的なニュアンスをもつ。可算名詞なら всех、総括的な意味あいには всего́ を用いる。

代名詞

１．代名詞とは、人やもの、特徴などを直接名指さずに、それらを指し示すために使われることばをいう。

２．意味と機能の上で人称、所有、指示、定、再帰、疑問、関係、否

定、不定代名詞の９種に分類できる。

３．人称代名詞の用法で主な注意点は以下の通りである。

▼я, ты には文法上性による区別がないので、男女いずれにも使う。

▽мы には次の表現的な技巧が可能である。

・評論や論文などで著者、編集者の自称として用いる。

・相手との一体感や同情を表すときに、たとえば医者が患者に向かって使う。会話的なニュアンスを伴う。

▼３人称の代名詞は、男女や雌雄を受ける他に、事物も指し示す。この場合の代名詞はむしろ指示代名詞に近い機能を果たしている。

４．所有代名詞は、所有や付属を表す。

▼１、２人称には修飾する名詞に応じて語尾変化があるが、３人称にはそれがない。

５．指示代名詞は、話題やものを指し示すときに使う。

▼主な指示代名詞として э́тот, тот, тако́й がある。

▽用法上の主な注意点は以下のとおりである。

・文の主語として用いられる　это　は、性と数に係わりなくあらゆる対象を指すことができる。この場合、動詞は述語の名詞に一致する。

・тот は э́тот に較べて話し手から物理的に、または心理的に遠い位置にあるものを指す。

э́тот бе́рег - тот бе́рег, э́тот свет - тот свет

・他に、тот は関係代名詞の先行詞として機能する。

［定式］（活動体）тот, кто ～（不活動体）то, что ～

６．定代名詞

▼代表的な定代名詞は сам, са́мый, весь, ка́ждый, любо́й である。

▽用法上の主な注意点は以下のとおりである。

・весь　は全体性や包括性を強調する。単複いずれの名詞とも結合する。但し翻訳に際しては単数形の訳語に注意が必要である。

Оттуда видно весь город. そこから街全体が見える。

・ка́ждый　も　весь　と同じく全体をまとめる意味あいをもっているが、同一の対象の中で個々を強調する。通常は単数形で使われる。複数形のみ使用する名詞、数詞との結合では複数形も使われる。

・любо́й　には「数ある中からどれでも好きなもの」という選択の意味がある。単数、複数ともに使用できる。

７．疑問代名詞

▼主な疑問代名詞には кто, что, ско́лько, чей, како́й, кото́рый などがある。

▽語法上の主な特徴や注意点は以下の通りである。

・кто は活動体名詞に対する疑問詞である。

・что は不活動体名詞に対する疑問詞である。

・２つの疑問詞には性と数の区別がない。対象が何であれ、кто を受ける述語には男性単数を、また что は中性単数を使う。

・что́ за ＝ како́й? の意味をもち、主として会話体で使われる。

［語順］ что за ＋主格（活動、不活動体名詞ともに）。

・ско́лько　は形容詞の複数形のような変化をするが、主格では名詞の生格と結合する。

・како́й は次の意味をもつ。

人や物の性質、特徴についてたずねる場合。

順序数詞を含む返答を想定できる場合。

・кото́рый は次の意味で用いられる。

返答に順序数詞を予想している場合。

数個の中から１つを選択する場合。

８．関係代名詞

▼疑問代名詞は、関係代名詞としても使われる。関係代名詞とは文の成分として機能しながら、２つの文に共通する単語をもって互いを結びつける代名詞をさす。

▽кто は活動体名詞を受ける。

［語順］тот (те, 活動体名詞), кто ～

▼что は不活動体名詞を受ける。

［語順］то (всё, 不活動体名詞), что ～

▽кото́рый は活動体・不活動体、どちらの名詞も先行詞とすることができる。性と数の語尾変化は先行詞に一致し、格は従属文での役割によって決定される。

▼какой は名詞を修飾する文成分となる。

［語順］тако́й ＋名詞, како́й ～

9．否定代名詞

▼否定代名詞は否定文の中で使われる。そして次の構造をもつ。

［ни-］ никто́, ничто́, никако́й

［не́-］ не́кого, не́чего

▽［ни-］型には以下のような特徴がある。

・文中では否定の述語とともに用いられる。

・никто́, ничто́ は、主語または補語として使われる。

・никако́йは、名詞を修飾する定語として使われる。

・前置詞句では接頭辞 ни- を分離して、前置詞を中間に入れる。

▼［не-］型には以下のような特徴がある。

・アクセントは常に не́- の上にある。

・主格形はない。

・動作の対象が存在しないので、動作そのものが実行不可能なことを表現する無人称文である。［語順］ не́[кого] ＋動詞の不定形。

・前置詞句では接頭辞 не- を分離して、前置詞を中間に入れる。

10. 不定代名詞

▼名指されるものが特定できない

▽不定代名詞は次の構造をもつ。

［疑問詞］-то кто́-то, что́-то, како́й-то

［疑問詞］-нибудь кто́-нибудь, что́-нибудь, како́й-нибудь

［疑問詞］-либо кто́-либо, что́-либо, како́й-либо

кое-［疑問詞］ ко́е-кто, ко́е-что

не́［疑問詞］ не́кто, не́что, не́который

▼-то と-нибудь が競合する場合、次のような意味の違いがある。

・-то は、話者自身には不明の、または特定し切れない人やものを指す。

・-нибудь は、「誰でも、何でも構わない」という自由選択が前提にあり、話し手は対象をまったく限定しない。

▽-либо は、-нибудь の文語的なニュアンスをもつ。

▼кое- は、話し手は知っているが、聞き手には不明の人やものを指す。従って、多少ほのめかしのニュアンスを帯びる。

▽не́кто は主格だけの用法で、常に人名とともに用いる。

［語順］не́кто ＋ 人名

▼не́что は主格、対格だけの用法で、常に形容詞長語尾単数中性形とともに用いる。［語順］не́что ＋ 形容詞

▽не́который は「若干の、ある種の」という意味をもち、名詞を修飾する。

形動詞

1．形動詞は動詞と形容詞の特性を併せもつ。

▼動詞との共通性

・動詞と意味が共通である。

・能動・受動の形成法が同じである。

・完了体と不完了体の区別がある。

・動詞の格支配をもつ。

・副詞によって修飾される。

・過去や現在の時制区分をもつ。

▽形容詞との共通性

・名詞を修飾する定語機能と文の述語になる述語機能をもつ。

・定語機能においては性・数・格において名詞と一致する。

・語形変化が形容詞と同一である。

2．形動詞の変化形についての注意点は以下の通りである。

▼能動形動詞現在

・長語尾形のみが使われる。

・不完了体動詞から派生する。３人称複数現在形から末尾の -т を削除し、 -щий に取り替える。

・ -ся はそのままに綴る。

・アクセントは第１型動詞では３人称複数に、また第２型では不定形に一致する。

▽能動形動詞過去

・長語尾形のみが使われる。

・不完了体、完了体動詞から派生する。過去形から語尾の -л を削除し、直前が母音なら、 -вший に、また子音なら -ший に取り替える。

・-ся はそのままに綴る。
・アクセントは、不定形と同一位置が原則である。
▼被動形動詞現在
・ほとんどが長語尾形の使用で、短語尾は稀である。
・不完了体動詞から派生する。１人称複数現在形に -ый を付加する。但し давать, даваемый; нести, несомый などは例外扱いである。
・アクセントの位置は、不定形に一致する。
・完了体から派生したものは可能、不可能の意味をもつ。
легко разрешимый вопрос 解決容易な問題
неразрешимый вопрос 解決不能な問題
▽被動形動詞過去
・長語尾、短語尾形ともに使われる。
・主に完了体動詞から派生する。過去形から語尾の -л を削除して、母音に -нный, -тый を、また子音には -енный を付加する。
・-тый 型になりやすい動詞には以下の傾向がある。
〇-нуть 動詞。т
〇-оть 動詞。т
〇-ереть 動詞。т
〇その他。взять, занять, открыть
・アクセントの位置については以下の傾向がある。
〇不定形で語幹にある動詞では移動が起こらない。
不定形で語末にアクセントをもつ動詞のうち
〇語末にとどまる動詞がある。
〇１つ前の音節にアクセントを移動させる動詞がある。

副動詞

１．副動詞は動詞の分詞形のひとつで、語尾変化がなく、文中では主動詞を修飾する副詞成分である。条件や理由、時間、動作のようすなどを表すが、これらの意味は文脈から判断しなければならない。
２．不完了体副動詞の形成
▼不完了体副動詞は、不完了体動詞の現在語幹に -а (-я) を付加して形成する。читая, говоря
▽-учи 型もあるが、極めて少数である。будучи, идучи
▼-ся は母音の後では -сь に綴りが替わる。
▽アクセントは、多少の例外(ex. давая)を除き不定形に一致する。
３．完了体副動詞の形成
▼完了体副動詞は、動詞の過去語幹を基に派生する。語幹末が母音なら -в (-вши) を付加し、子音なら -ши を付加する。
▽現在語幹から派生させる動詞群(-сти, -зти, идти)があり、これらは「～するや否や」という完了したばかりの動作を表す。
▼-ся は母音の後では -сь に綴りが替わる。
▽アクセントは通常、不定形に一致する。
４．副動詞の用法上で主な注意点は以下の通りである。
▼動作主は主文の主語と一致する。
▽語順は［副動詞句＋主文］が一般的である。
▼不完了体副動詞は、主文の動作と同時並行的に行われる動作を表す。
▽完了体副動詞は、主文の動作に先立つ動作を表す。

数　詞

１．数詞とは、数で表された事物の数量や順序を意味する品詞である。また若干の例外を除き、性と数の概念をもたない。変化に際しては主格と斜格の違いが大きい。
２．数詞には、個、順序、分、集合、不定数詞の５種類がある。
３．分数詞には以下の注意点がある。
・分詞を個数詞で、分母を順序数詞で表す。
・会話体では、половина, треть, четверть も使う。
・1.5=полтора (女性は полторы)を使う。
４．数詞の用法上で主な注意点は以下の通りである。
▼ゼロ нуль は次に名詞の複数生格形を求める。
▽数詞１は名詞の性・数・格に一致する。
▼最小位が２～４の時
・主格（不活動体の対格）で、形容詞は複数生格、名詞は単数生格形

・その他の格では、形容詞、名詞ともに必要な格の複数形に揃う。
▽最小位が５以上の時
・主格（不活動体の対格）で、形容詞、名詞ともに複数生格形。
・その他の格では、形容詞、名詞ともに必要な格の複数形に揃う。
▼２以上を表す数詞が主語の場合、不活動体名詞なら述語は中性単数で、また活動体名詞なら述語を複数形で受けることが多い。
▽分数を構成する名詞は、常に単数生格形で受ける。但し複数形しか使わない名詞を除く。
▼集合数詞では以下に注意する。
・оба (女性は обе)は「２つ、両方の」という意味をもつ。
・集合数詞は次のようなことばと結合する。
〇単数形をもたない名詞。
〇男性の人、または子ども。女性の人や公式表現（たとえばVIP）には個数詞を用いる。
〇代名詞とともに。
▽不定数詞とは通常、複数形語尾が結合する。